

連載 101 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した 私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義 (66歳・内科)

粋な遊びからか？ 人情の表裏に通じる団塊の世代は今!!

30年前ごろの私は、大学病院の某教授に連れられ、通常の高級クラブを捌け、学術的に裏付けのある文化度を上げるためと称し、ホステス



さんを伴いニューハーフクラブやおかまバーに通ったものでした。

「先生、お久しぶりですね〜」。ニューハーフクラブへ10年ぶりに訪問しました。続けて、おかまバーにも顔見せとなりましたが、お店はどちらも一口に言って、暇でした。

最近、郊外に目を向け、紹介されるままにカラオケスナックのドアを開けてみると、そこは演歌が流れる団塊の世代の巣となっているのです。なるほど、街中の二番町・三番町からその世代の姿が消えているはずはです。

気がつく、以前飲み代として授業料をたくさん払って得た癖でしょうか、私は慣れた手つきで自然とマイクを持ち、「まわり道」とか「わかってください」を熱唱していたのです。そして、社会

保障の現状把握と医療政策の啓蒙活動に協力していただけるオーナーママに紹介されるままに、国策(厚生労働省)のかかりつけ医制度や健康長寿概念を説明する私が、そこにいました。

しばらくして、ニューハーフクラブやおかまバーの暇なお店を安く借り切り、当院バージョン(院長の企画)に衣替えしたショーパブにて、他事業のスタッフを交え、楽しい一夜を過ごし、絆を強めたのでした。今回は、お店のママ(75歳)を中心とした「シャンションショー」を企画し、私たちの文化度をそれなりに上げようと思っているのです。私も、演歌だけでなくクラシックもどきの歌の勉強を知らず知らず開始していました。

残念ながら、団塊の世代は往年の切れ味はなくなり、少しばかり忘れっぽくなり(認知力低

下)、移動するのが煩わしいのか、日常生活の周辺で一日を完結しようとしています。だからこそ、松山市の中心街とその周辺が昼夜を問わず行き来し往来が途絶えないように、老若男女が交流できるイベントや文化交流の催し物を積極的に企画し、時代の良質な小さい渦から大きな流れとなるように、お互いの絆を強め合うことができればと思うのです。

地域包括・地方創生の観点からも、私たちは、2025年問題(団塊の世代の介護需要、増加による社会保障費問題)をうまく切り抜け、さらにお互いが幸せ感のある充実した人生となるように、楽しみながら協力し合いたいと思っています。

外来診療(かかりつけ医) 要予約 総合内科・漢方診療科

お医者さんが 24時間・365日体制で対応
来てくれる (松山市全域)

私たちは、質の高い
在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 22名
(常勤8名、非常勤14名)
内科・外科専門医 18名
(国立がんセンター勤務歴有3名)
精神科専門医 2名
麻酔科専門医 2名
(ペインクリニック科)
末期がん治療(緩和ケア)
相談室開設!

Hyper Blood Viscosity (高血液粘度群)を科学する 臨床生命科学(体質・病態学、栄養学)研究所開設
「地方創生健康長寿研究会」平成27年4月1日発足

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788
<http://www.touzaikai.jp/>